

2022年度自己点検・評価報告書

実施部署： 教育開発・支援センター

数理・データサイエンス・A I (学内視点)		各部署記入欄		
NO	点検項目	自己評価	点検項目について、構成項目を踏まえた現状説明	自己評価を踏まえた課題とその発展方策
①	プログラムの履修・修得状況	B	履修データからプログラムの履修状況を把握し、各学部において判定シートを作成することで、受講者毎の修了要件単位取得状況を把握することができます。2022年度春学期は118名の修了が認定された。	修了者数は1%未満であり、修得率を向上させる体制が求められる。 目標を実現するために、2022年度中にシンポジウムを開催したため、他大学の事例を基に、広報および改善を継続的に実施、全学的な履修率向上を推進に活かす。また、2022年度は春学期にリアルタイム配信での開講だった「データサイエンスAI概論」講座を、2023年度には曜日時限の設定を外したオンデマンド型で開講することで履修できる学生を増やす。
②	学修成果	A	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問2：この科目を履修して、どのようなことが理解できるようになりましたか」の項目を分析することによって、テーマごとの学修成果を把握することができ、その結果を本教育プログラムの評価・改善に活用している。	「社会で起きている変化や活用されているデータ」「データ・AIを活用した新しいビジネス・サービス・技術」「データ・AIを活用することで生まれる付加価値や最新動向（ビジネスモデル・テクノロジー）」「データ・AIを扱う上、またデータを守る上での留意事項」といったテーマをそれぞれ満遍なく理解できたとの回答があった。より幅広いテーマで学生が理解できるよう、引き続き精査する。
③	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問3：データサイエンスAI概論」の授業内容を理解できましたか」の項目を分析することによって、学生の理解度を分析している。	「とても理解できた」と「少し理解できた」が合わせて95%に達した。さらなる理解度向上に向けて、講師からのアンケートにて意見のあった「初回授業で、人工知能概論として、現在のAIの技術がどの程度普及しているかを伝える」ことを、2023年度から行う。
④	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問4：学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度」の項目を分析することによって、後輩学生や他の学生への推奨について確認している。	「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムを他の学生にも勧めたい」は85%に達した。Oh-olMeijiシステム(LMS)アンケート機能により授業時間内外で質問対応、ティーチング・アシスタントの配置できめ細やかな学修支援を行うことで、引き続き高い水準を目指す。
⑤	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	本教育プログラムについては教育開発・支援センターにおいて、履修者数、履修率の向上にむけて、随時検討を行い、学生の履修を推進している。	入学後のガイダンス、本学のWEBサイト上での周知、プレスリリースにより、学生が情報を受け取りやすい環境を整備することで、高い水準を目指す。
数理・データサイエンス・A I (学外視点)		各部署記入欄		
NO	点検項目	自己評価	点検項目について、構成項目を踏まえた現状説明	自己評価を踏まえた課題とその発展方策
⑥	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	まだ修了者の卒業生が不在のため把握はできていないが、「データサイエンスA I概論」の講師の中で、企業に所属している実務経験者にアンケートを実施し、受講生の授業態度（質問の量・質）、課題・リアクションペーパー等への入力内容から、受講生の質を聞いている。	受講生の質について、「とても評価できる」「少し評価できる」が合わせて100%となり、企業に所属する実務経験者からも評価されている。今後は修了者の進路を集計することで、本プログラム取得に係る影響を調査する。
⑦	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	「データサイエンスA I概論」の講師の中で、企業に所属している実務経験者にアンケートを実施し、プログラム改善に係る意見を収集するとともに、教育開発・支援センターにおいてプログラムの改善に活用している。	理解度向上に向けて、「初回授業で、人工知能概論として、現在のAIの技術がどの程度普及しているかを伝える」ことを、2023年度から行う。 また、履修者数をもっと増やしても良いとの意見もあり、2022年度は春学期にリアルタイム配信での開講だった「データサイエンスAI概論」講座を、2023年度には曜日時限の設定を外したオンデマンド型で開講することで履修できる学生を増やす。
⑧	数理・データサイエンス・A Iを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問5：「データサイエンスAI概論」を受講して、データサイエンスや人工知能への関心が高まりました、これを学ぶ意義が理解できましたか」の項目を分析している。	「大いに当てはまる」が85%、「やや当てはまる」15%で、全員が「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解したと回答した。
⑨	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目についても「授業改善アンケート」を実施した。	難易度について「とても難しい」が10%、「少し難しい」が30%、「ちょうど良い」が60%との回答があり、難易度が高いと感じる学生が少し多かった。しかし授業の進むスピードは「ちょうど良い」が92%、資料の見やすさは「とても見やすい」「おおむね見やすい」が合わせて93%、満足度も「とても良い授業だと思う」「おおむね良い授業だと思う」が合わせて100%と高かった。難易度が少し高いものを理解しやすい形で運営できたことは、次年度以降も引き続き継続する。

- A. 課題を改善した又は新たな取組みがあった
- B. 概ね前年通りである又は特に問題はない
- C. 更なる改善が必要な点がある